

IV-57

遠野物語を基調とした遠野郷エコミュージアム構想

岩手大学工学部 正 員 安藤 昭
 岩手大学工学部 正 員 佐々木栄洋
 岩手大学工学部 正 員 赤谷 隆一
 岩手大学工学部 学生員 ○高畑麻由子

1. 研究の背景と目的

岩手県東南部に位置する遠野郷（遠野市及び宮守村を指す）は民話という地域資源に着目し、遠野郷の暮らしや民話の世界をイメージ・彷彿させる諸施策に取り組んでいる。しかしながら、観光地の多くが抱える「開発による歴史や文化の破壊、環境悪化」といった問題は、遠野郷においても懸念されており、更なる観光地化は商売意欲向上による弊害、自然破壊が生じる恐れもある。したがってこれらの課題の解決や将来への風土の継承・保全を重点としたまちづくりを考える上で、エコミュージアムの理念を導入することは意義があると思われる。

本研究では、遠野郷住民を交えた「遠野郷エコミュージアム研究会」を発足させ、PI手法の開発及び遠野物語と地域遺産の総合的な保全、活用の方角性を示す遠野郷エコミュージアム構想を立案することを目的とする。

2. 遠野郷エコミュージアム（生活・環境博物館）研究会

遠野郷エコミュージアム構想立案の手順を図1に示す。本研究では、まず、遠野郷エコミュージアム構想の構成要素（中核施設、現地において保存される地域遺産、発見の小径、案内板）を決定することを目的とした「遠野郷エコミュージアム（生活・環境博物館）研究会」を設置することとした。エコミュージアムには、行政と住民の双方を交えた十分な検討、計画段階からの住民参加が必要である。この研究会は、その実現に向けた組織と位置づけされるものであり、遠野郷の住民、遠野地方振興局職員及び遠野市役所職員、及び岩手大学都市工学研究室スタッフにて構成する。

(1) 遠野郷エコミュージアム研究会説明会

遠野郷エコミュージアム研究会発足に向け、まず遠野物語研究所、遠野郷地域づくり団体に参加を呼びかけ説明会を開催した。説明会には8団体14名が参加し、エコミュージアム導入の位置づけ、研究会の内容等について意見を交わした。その中で「研究会と遠野郷における現在までの取り組みの関係を明確にする」、「一般住民の参加を交えた研究会にしたい」等の意見があげられ、研究会発足に向け議論した。そして、住民参加の方法、意見の集約方法、研究

会の情報公開等を検討し、遠野郷エコミュージアム（生活・環境博物館）研究会を発足させた。住民参加の方法として、遠野郷10,403世帯（平成13年10月現在）の約1割の1,000世帯に対し、地区人口に比例させて公募し、その結果97名が参加を希望した。意見の集約は、住民を対象にした意識調査と研究会における議論の2層方法で行った。なお、意識調査は、研究会におけるテーマに関する内容を研究会開催前に研究会参加者に対し実施し、その結果をもとに意見を交わし進めるという方法で行うことにした。また、「エコミュージアムという言葉の意味がわかりにくい」との意見が出され、「生活・環境博物館研究会」と名称を改名した。これまで行われた説明会及び第3回までの研究会の内容は次の通りである。

(2) 第1回遠野郷生活・環境博物館研究会

第1回研究会（参加者42名）では、地域遺産に関する実態調査及び遠野物語に関する意識調査の結果¹⁾、生活・環境博物館の概要、研究会の理念と内容について説明し、研究会の目的を理解してもらった。参加者が42名の場合、参加者の発言は限られ、参加者の活発な意見交換が困難であり、研究会の進行は困難であることがわかった。参加者を公募で募集する際の課題として、研究会運営の適正人数を十分に検討し、意見の集約方法を工夫する必要があるといえる。

(3) 第2回遠野郷生活・環境博物館研究会

第2回研究会（参加者18名）では、遠野物語と地域遺産の関係として遠野物語の重要性和遠野物語に登場しない地域遺産の扱いについて議論した。第2回研究会開催前に参加希望者97名を対象に行った地域遺産に関する意識調査の結果をもとに議論したところ、遠野物語に登場しなくとも魅力のある地域遺産が存在することが明らかとなり、遠野郷の風土イメージ調査を実施し、地域遺産の抽出を行うことにした。互いの顔を見ながら意見を交わすことができるよう座席を対面式にした結果、参加者全員が積極的に意見を交わした。

(4) 第3回遠野郷生活・環境博物館研究会

第3回研究会（参加者37名）では、遠野郷の風土イメージ調査により抽出した地域遺産について議論した。今回は、若者や女性にも参加してもらった。同じ人が何度も意見をいうことはできなかったが、一人一回は発言することができた。風土イメージ調査（メンタルマップ法、言語記述法）は、直接面接法で平成14年1月22日～27日に行った。なお、調査内容は、①遠野郷の中で心に鮮やかに思い浮かぶもの②遠野郷の景色・ことがらに関する「好き・嫌い」③遠野郷の景色・ことがらに関する「善い・悪い」である。これまでの書面での開催案内に加え、事前に電話で

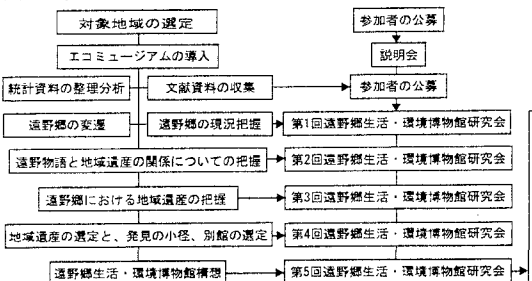


図1 遠野郷エコミュージアム構想立案の手順

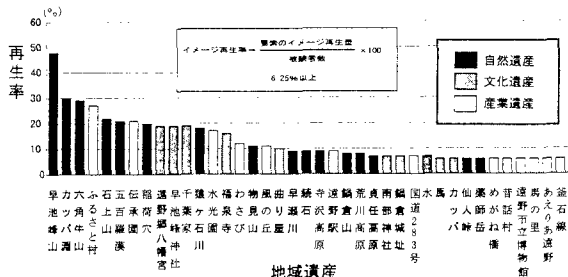


図2 イメージ再生率（メンタルマップ法）

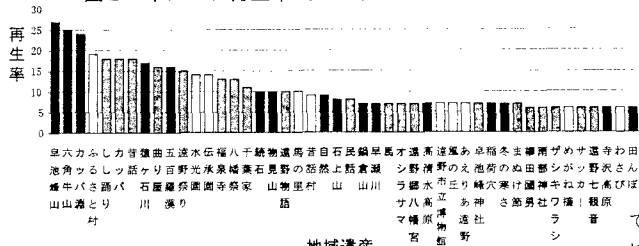


図3 イメージ再生率（言語記述法）



図4 地域遺産の分布（メンタルマップ法）

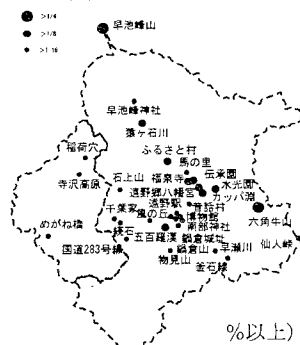


図5 地域遺産の分布（言語記述法）

連絡した結果、参加者が増えた。また、参加者37名では参加者全員が発言できたものの、約2時間半の研究会で意見を交わすには多い人数であるといえる。

3. 風土イメージ調査の結果及び考察

メンタルマップ法の回収数は104票で、男性45票(43.3%)、女性59票(56.7%)となった。言語記述法の回収数は105票で、男性38票(36.1%)、女性67票(63.9%)となった。図2、図3は、再生された要素を自然遺産、文化遺産、産業遺産に分類し、イメージ再生率の高い順に並べたものである。再生要素名の太字は遠野物語に登場するものを指す。メンタルマップ法では、自然遺産85要素、文化遺産62要素、産業遺産59要素、計206要素が遠野郷の中で心に鮮やかに思い浮かぶものとして再生され、そのうち39要素(19%)が遠野物語に登場するものとして再生された。図2はメンタルマップ法で再生された地域遺産のうち上位にあげられた(再生率6.25%以上)のものを示したものである。再生された39要素の地域遺産のうち18要素(46%)が遠野物語に登場するものとなった。図2からは特に山として再生されたものが高い再生率を示していることがわかる。さらに、一番高い再生率を示した

た早池峰山は約半分の人が選んでいた。文化遺産としては、早池峰神社や千葉家は遠野物語には登場しないが、遠野物語に頻繁に登場する猿ヶ石川よりも高い再生率を示した。よって、早池峰神社や、千葉家は、価値のある遺産であるといえる。産業遺産は遠野物語に登場しないが、ふるさと村のイメージ再生率は27%と高い再生率を示した。これは、古くから伝わる伝統行事や農作業体験ができたりと、間接的に遠野物語に関連しているからだといえる。言語記述法では再生されなかった、遠野駅、国道283号、

釜石線は再生率は低いものの産業遺産として再生されたことがわかる。また、全体的に見て、遠野物語に登場するものとしては自然遺産が多いということがわかる。

言語記述法では、自然遺産81要素、文化遺産86要素、産業遺産32要素、計199要素が遠野郷の中で心に鮮やかに思い浮かぶものとして再生され、そのうち39要素(20%)が遠野物語に登場するものとして再生された。図3は言語記述法で再生された地域遺産のうち上位にあげられた(再生率6.25%以上)のものを示したものである。再生された46要素の地域遺産のうち23要素(50%)が遠野物語に登場するものとなった。メンタルマップ法では再生されなかったし踊りが18%と高い再生率を示した。また、メンタルマップ法に比べて文化遺産は全体的に高い再生率を得たことがわかる。メンタルマップ法、言語記述法の両方に言えることとして、再生された地域遺産の約20%が遠野物語に登場するものとなったが、上位にあがった(再生率6.25%以上)になると、図2、図3より約半分以上が遠野物語に登場するものとなった。このことから、遠野物語に登場する地域遺産のイメージ再生率は高いといえる。また、遠野郷の地域遺産を考えていく上で、遠野物語は重要となると考えられる。図4、図5は、遠野郷の中で心に鮮やかに思い浮かぶものとして再生された要素を地図上においてイメージ再生量別に分類して示したものである。遠野物語に登場しない伝承園は、図4、図5からもわかるようにカップ淵の近くにあることから高い再生率が得られたと考えられる。メンタルマップ法では、薬師岳、荒川高原が再生されたのに対し、言語記述法では再生されなかった。これは、早池峰山を選んだときに空間的なつながりとして周辺の山々がイメージされたためである。

4. おわりに

今後、抽出した遠野郷の地域遺産に関するイメージフローを分析しゾーニングすることにより、エコミュージアムのパターン別に比較・検討し、現地において保存される地域遺産を選定する。さらに中核施設、発見の小径等の選定を行い遠野郷生活・環境博物館構想立案を目指す。

参考文献

- 1) 松野和彦:遠野エコミュージアム計画に関する基礎研究、岩手大学卒業論文、2001
- 2) 柳田国男:遠野物語、大和書房、1990